

わたしたちの町会・自治会

おはようございます。ご苦労さん。元気のいい子供たちの受付でのあいさつ。今日は町会の運動会。昭和62年秋に熊川地域体育館の完成を祝して始まった町会親睦ミニ運動会。以来、私たちの運動会はお天気の心配が無く安心して行われています。参加者は180名前後。体育館の先生の指導により準備体操をしてから、紅白に分かれて競技を行います。町会内外の協賛スポンサーのお世話にもなり、多数の商品も用意できるようになっていきます。子供会、青少年協を中心としたプログラム編集担当の企画した種目（ゴミの分別収集が始まったときはそれにちなんだ種目、カーリングがはやればそれを取り入れたカーリングも行いました。）で、隣組長さんを中心とした運営委員のご尽力で、運動会会場としてはちよつと狭いのですが、それが親近感を生み、雨天の心配も無く、スポーツの秋を楽しんでいます。

運営での悩みは、中学生くらいになると参加しなくなることです。運動会参加者の二世がそろそろ参加して、いつそう盛り上げてくれるのではないかと期待しています。20回目

**楽しい町会親睦ミニ運動会は
雨天決行で20年??? 内出町会
内出町会長 石川勘治**



を迎える今年は11月5日（日）に予定していますので大勢の参加をお待ちしています。

地域内が安心して住めるよう、青少年協、子供会、福寿会等各種団体の協力を得ながら、町会会員はもとより、隣組長さんを始め理事、役員一同頑張っています。楽しい「ちいき」づくりを目指していますので、内出町会地域の町会未加入の方、随時会員を募集いたしますのでご加入ください。（内出町会は、隣組数が40組、加入世帯数は231世帯）

☆☆☆ ふっさ再発見 ☆☆☆ vol.2

毎年7月の最後の土曜・日曜に市内の祭礼が行われます。今年で3回目を迎えた原ヶ谷戸町会、本町第七町会、本町第八第一町内会、本町第八第二町内会、武蔵野台町会の



東口駅前 祭礼イベント



五町会合同による神輿・山車の巡行は、7月30日の午後4時すぎ、福生駅東口駅前に集まり、広場を埋め尽くす観客の前でお囃子と威勢のよい掛け声とともに披露されました。地域の力が集結し地域の活性化を進める恒例の行事となっています。

コミュニケーションの大切さ

鍋ヶ谷戸第一町会 石井 勇

鍋一町会の町会加入世帯数は470世帯(約47%の加入率)。当地区には、熊川地区の象徴・東京都の重要文化財である熊川神社があります。この神社の境内に町会の会館があります。老人クラブ・青少年育成委員会・はやし連・小中PTAの人と共に町会活動をしております。春は球技大会(キックベースボール・ソフトバレーボール)、夏は夏祭り(盆踊り・神輿・山車・演芸会)、秋は運動会と、町会の皆様と楽しいひと時を過ごさせていただいております。

ところで、毎日のように悲惨な事件が起きております。この一因に「お互いの思いやり」の欠乏があげられるのではないのでしょうか。時間的な問題もありません。家庭・地域ともコミュニケーションの場や時間が少なくなっています。昔は、井戸端会議のような場所や家の縁側で気軽に話し合える場所がありました。しかし、今は、隣人さえも知らない状況であります。こんな中、地震などの災害があつたらどうでしょう?隣の人の顔さえ知らないなかでは、

お互い助け合っていくことは難しいでしょう。こうしてみると、いかに日頃の交流が大事であるかがわかります。

確かに、今、広報などが充実していますので、町会に加入しなくても市の出来事や予定は分かれます。しかし、その地域の動向や人間味はわかりません。地域の人達との交流を通し、お互いを理解し、お互いが助け合える心が芽生えれば最高です。わが町会でも、先ごろ「柔軟体操と太極拳」を週一回会館で始めました。健康促進の意味もありますが、一人でも多くの人に町会の輪に入ってもらいたい趣旨でもあります。多数の人々が気軽に参加できる場を提供していきたいと思っております。



天保神輿はわが町のお宝

本町第八第一町内会 中倉 眞知子

本八第一町内会のエリアは、市内では新開地といえる福生駅の北東に位置します。本八町内会として発足した当初から、子供神輿はありましたが大人神輿はなく、それを持つことが町内会の長年の夢でした。一時期は樽神輿が祭礼を盛り立ててくれていましたが、毎年酒樽に新しい菘を巻いて神輿に仕立てる作業は、とても大変なものだったようです。

そんな折、加美町会の物置に放置されていた古いお神輿を、我が町内会で譲り受けることになりました。昭和52年の末のことです。当時の町会長、渡辺宜信さんは「譲ってもらったものの、これが神輿?と思うほど痛みがひどくてね」と笑ってその時の様子を振り返られます。ところが、五百数十名の方々の寄付を受けて修復作業が始まると、取り外された金具の裏側に、こんな文字が発見されたのです。「再危天保十二年辛丑夏六月吉日」。その昔、福生村内で持ち回りで担がれていたというお神輿は、なんと、江戸時代の天保年間に作られたものだったのです。真贋のほど

は、当時福生村の名主総代だった田村家の日記帳に、同年同月に支払った神輿代金が記載されていたことから実証されています。さて、この由緒あるお神輿、平成15年度にも多くの方々からご寄付をいただいで、新たに修復をしました。水引の朱も鮮やかな天保神輿は今年の夏も「ふっさ」と染め抜かれた半纏の衆に担がれて、ソイヤ、ソイヤと町を練り歩いたのでした。



永田町会の祭礼

永田町会 笹本 和一

永田町会の会員数は、三百数世帯です。祭礼には、神・子供みこし・大人みこし(樽みこし)・山車が町内を二日間巡行するので、多